

自律型学習者を育てる カリキュラム構築 ～読解力向上を目指して～

報 告 書

青森開催

開催日： 2020年 8月 8日(土)

会場： リンクステーションホール青森（青森市文化会館）

主催： 産業能率大学

後援： 青森県教育委員会 青森県高等学校長協会 北海道教育委員会
岩手県教育委員会 秋田県教育委員会

はじめに

本報告書は、2020年8月8日（土）に青森で開催した授業力向上フォーラムでの講演セッションをまとめたものです。

2007年から始めた本フォーラムは、今年14年目を迎えました。世界を揺るがす新型コロナウイルス感染症の影響から、多くのイベント同様に東京・自由が丘での開催は不可能となりましたが、昨年12月に実施を決定していた青森開催のみ奇跡的に実施することが出来ました。

当初の計画では、オリンピックの影響を回避するために、8月上旬での開催を意図したのですが、振り返ると感染症の状況や高校での夏季休暇期間の変更など、この時期でしか開催できなかったと思われ、まさに「不幸中の幸い」と言えるものでした。

また、このような状況下でも開催を決断できたのは、齋藤郁子校長先生（三沢高校）や千葉栄美教頭先生（青森高校）の熱い思いにお応えしたいという一念でした。企画を考える段になり、収容人数も制限せざる得なく、また遠方からの参加も難しいことから、Zoomによるオンライン同時開催にチャレンジすることになりました。これは、当時かなりの勇断でしたが、結果として失敗と成功の両者を味わうことに繋がります。

青森会場には青森県を中心に80名の先生方にお集まりいただき、またオンラインでは128名の先生方が全国から参加されました。全体では208名となり、幸いなことに東京・自由が丘での開催と同程度の規模で実施できました。

ただ、オンライン実施では開始早々から音声が聞き取り難いという状態となり、結果、セッション1の渡邊先生の講演は再度録画を配信するという大変申し訳ない結果となりました。

急遽、教室変更など対策を講じ、セッション2からの西山先生、和田先生の講演および分科会は、講演者、参加者皆様のご協力もあり、オンラインでもストレスの少ない運営を行うことができました。オンライン参加者からの温かなメッセージには、嬉しさのあまりに涙しました。この場を借りて御礼申し上げます。

フォーラム開催にご協力、ご支援下さいました青森県高校長協会はじめ、青森県の先生方、本当にありがとうございました。また、お忙しいところご登壇下さいました講師の先生方、心より御礼申し上げます。そして何よりも会場およびオンラインでご参加下さいました先生方あるいは教育、行政の関係者の皆様には感謝の念を禁じえません。

次年度は、通常通り開催できることを祈るばかりです。おそらく東京オリンピックも開催されることから、その影響も考慮し、皆様と再会できることを心待ちにしております。もちろん今回の経験を踏まえ、万全な体制でのオンライン配信も検討してまいります。

本報告書が教育改革の一助となることを祈念しております。これからも教育現場に寄り添えるフォーラムとなるよう努力して参ります。

産業能率大学 入試企画部長
林 巧 樹

授業力向上フォーラム 自律型学習者を育てる カリキュラム構築 ～読解力向上を目指して～

in
青森
8/8
オンライン
同時開催！

ねらい

「日本の教科書がアメリカ等に比べ薄いのは、教科書には最低限のことしか記載されておらず、教える力に長けている日本の教員がそれを補完している」(AERA No.26) この記事では休校期間に教科書だけの生徒(の主体性)に頼る学習では学力格差を生むだけだという論調で書かれています。
“with コロナ”環境のもと自宅学習、オンライン学習を進めるうえで、教師が教えることに頼った学校教育から、生徒の主体性を育み、自律型学習者となるためには何が必要なのかを考察し、読解力の向上について学んでいきたいと考えています。日本の先生方の教える力は世界に誇れるものであると思います。しかし、これから子供たちに求められる力は間違いなく「自分で考える力」です。
今回のフォーラムでは、講演、ワークショップ分科会、オンライン講座を通じ、生徒が自ら考え、学ぶ力を育てることをテーマに進めてまいります。

開催概要

日程	2020年8月8日(土)
時間	10時30分～18時
会場	リンクステーションホール青森(青森市文化会館)
定員	会場参加 135名 オンライン参加 120名

参加費	(会場参加・オンライン参加ともに) 2,000円
主催	産業能率大学
後援	青森県教育委員会、青森県高等学校長協会、 北海道教育委員会、岩手県教育委員会、 秋田県教育委員会

01 session 講演

**新たな局面に求められる力
～生徒にどんな学力を身に付けさせたいのですか？～**

【講演者】
福井県立若狭高等学校 **渡邊 久暢** 先生

02 session 講演

探究学習を通じて論理的思考力を育てる

【講演者】
宮城県立宮崎東高等学校 **西山 正三** 先生

03 session 探究をテーマとした分科会 1つを選択

**A 新学習指導要領をふまえた国語学力の育成
～共通テストへの対応も見据えて～**

福井県立若狭高等学校 **渡邊 久暢** 先生

B 日本史探究における仮説立てを考える

青森県総合学校教育センター **金子 勇太** 先生
産業能率大学 経営学部 **皆川 雅樹** 准教授

**C 数学にとって探究とは何か？
～教科書を読み解く力を育てる～**

三重県私立高田中学校・高等学校 **岩佐 純巨** 先生
立命館宇治中学校・高等学校 **酒井 淳平** 先生

**D 英語と日本語に共通する読解技能向上のための
プロセス指導～学んだことを使って定着させる～**

青森県立田名部高等学校 **堤 孝** 先生

オンライン参加者専用

**E 「探究学習」の分かれ道
～自律型か、統制型か～**

産業能率大学 経営学部
学長補佐 教育支援センター長 **杉田 一真** 教授

オンライン参加者専用

**F 自律型学習者を育成する
～教えない授業のノウハウから学ぶ**

新渡戸文化小中高学校 **山本 崇雄** 先生

04 session 講演

**未来に向き合う生徒を育てるために
～教師自身のインテイクスイッチを入れる～**

【講演者】
福岡市立福岡西陵高等学校 校長 **和田 美千代** 先生

05 session リフレクション

全体リフレクション

【ファシリテーター】
立命館宇治中学校・高等学校 **酒井 淳平** 先生

お問い合わせ・お申し込み

産業能率大学 フォーラム事務局(企画課) 〒158-8630 東京都世田谷区等々力6-39-15
TEL.03-3704-0731 Email: kikaku@hj.sanno.ac.jp

フォーラムの情報はホームページで情報を更新しています。
右のQRコードからアクセスしてください。
<https://www.sanno.ac.jp/teachers/aomori2020.html>



講演者プロフィール（敬省略）

■西山 正三 宮崎県立宮崎東高等学校定時制夜間部 教諭

全国で初の公立の中高一貫校である宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校で研究調査部主任と SGH 事務局長として探究学習（課題研究）を中心に取り組み、現在は宮崎県立宮崎東高等学校にて教鞭を執る。専門は化学だが、蛇紋岩の研究(地学)やウメノキゴケの研究(生物・化学)などの指導も行っている。また、小学校、中学校、高校、中等教育学校全ての教員経験がある。右記書籍等で取り組みが紹介されている。『アクティブラーニング実践Ⅱ』（産業能率大学出版部）、『人はもともとアクティブ・ラーナー』（北大路書房）『Career Guidance』vol. 403 および vol. 415 など多数。

■和田 美千代 福岡市立福岡西陵高等学校 校長

平成 6 年福岡県立城南高校で、生徒主体の進路学習ドリカムプランを企画開発、キャリア教育の先進事例として全国的注目を集める。城南高校には教諭として 18 年、教頭として 2 年、計 20 年勤務。文部科学省のキャリア教育関係の委員を務め、学習指導要領特別活動の解説にも携わる。平成 27 年から 2 年間、福岡県教育指導部長として、新たな学びプロジェクトチームを率い、アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）の普及啓発の仕事を。福岡県教育庁高校教育課主幹指導主事を経て、平成 30 年度から城南高校校長。城南高校ラストの年に SSH3 期の指定を受ける。福岡県教職員を定年退職後、福岡市立福岡西陵高校校長。着任 2 日目にオンライン学習開始を宣言。全国に先駆けて公立高校でのオンライン学習をスタート、多くのメディアで報道された。西陵の職員からは黒船と呼ばれている。

もくじ

「探究学習を通じて論理的思考力を育てる」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7P
宮崎県立宮崎東高等学校定時制夜間部 西山 正三

「未来に向き合う生徒を育てるために ～教師自身のインテイクスイッチを入れる～」・ 29P
福岡市立福岡西陵高等学校 校長 和田 美千代

宮崎県立宮崎東高等学校定時制夜間部

西山 正三 先生

探究学習を通じて論理的思考力を育てる

1 はじめに

Q1：総合的な探究の時間で「育成すべき資質・能力」はどんなものがあるか？

Q2：論理的思考力とは具体的にどのような力なのだろうか？

Q3：なぜ「風が吹けば桶屋が儲かる」のか？

ワーク1：自分なりに筋道をたてる

2 探究学習と論理的思考力との関係

2-1 論理的思考力を育てるためには

Q4：課題を設定することは一番難しいと言われているが、それはなぜだと思いますか？

ワーク2：マンダラートを実際に経験してみましょう

2-2 論理的思考力の使い方

Q5：総合的な探究の時間を経験することで得た力は、こういった場面で有効なのでしょう吗？

3 まとめ

探究学習を通じて論理的思考力を育てる

宮崎県立宮崎東高等学校定時制夜間部

西山 正三

1 はじめに

皆さまこんにちは。本日は「探究学習を通じて論理的思考力を育てる」というタイトルで講演させていただきます、よろしくお願いします。自己紹介をまずさせていただきます。西山正三と申します、教員をしております専門は理科の化学です。宮崎県立高鍋農業高等学校では「JST」からサイエンスレンジャーにスカウトされて、いろんな実験をさせていただきました。そして宮崎県立宮崎南高校という進学校を経て宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校に行き、開校当初から探究学習をしており、探究学習の研究調査部主任をしました。そして同校がSGHに指定されたので、その事務局長をしました。ここで生徒と一緒に多くの探究学習をして、いろんな大会に出ました。

「APRSAF-21」というJAXAの水ロケット国際大会で生徒が2位になったことが一番の思い出です。今は宮崎県立宮崎東高等学校定時制夜間部にあります。本日は自宅からZoomで講演を行っています。

Q1：総合的な探究の時間で「育成すべき資質・能力」はどんなものがあるか？

それでは本題に移ります。【Q1：総合的な探究の時間で『育成すべき資質・能力』はどんなものがあるか？】です。ちょっとだけ考えてもらってよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。先生方には愚問だったかもしれませんが。すべての教科で育成すべき資質・能力は、「1 知識・技能」「2 思考力・判断力・表現力等」、「3 学びに向かう力・人間性等」です。この3つの柱は「総合的な探究の時間」だけでなく、今度の学習指導要領では全ての教科等で育てる力になっています。昔は「生きる力」と言っていましたが抽象的で分かりにくかったのか、今回の学習指導要領では具体的にこのように明示されています。この3つの柱は全ての教科に対応していると言いましたが、「総合的な探究の時間」ではさらに詳しく対応しています。それはスライド5の中の小さい文字です。それぞれ学習指導要領でご覧いただけますのでお時間のあるときに見てください。とは言えパッと見ただけでは分かりづらい、あるいは小難しい表現となっているところもあると思いますので、紹介程度にして本題に移ります。

先ほどの3つの柱の2番目に「思考力」とありますが、本日は「総合的な探究の時間を行うことにより、論理的思考力が育つ」ということを自分なりに検証してみたいと思っています。

(スライド5)

1. はじめに

総合的な探究の時間で「育成すべき資質・能力」

1 知識・技能

探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。

2 思考力・判断力・表現力等

実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

3 学びに向かう力・人間性等

探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編の「第3章 総合的な探究の時間の目標」

Q2：論理的思考力とは具体的にどのような力なのだろうか？

本日は考えていただいたり、ワークの時間を少し入れております。もしよろしければ考えていただければと思います。**【Q2：論理的思考力とは具体的にどのような力なのだろうか？】**を少し考えていただきます。1分程度お願いします。

はい、ありがとうございます。それではまず「論理」という言葉ですが、以下の2つの要素から成り立っています。①筋道がはっきりしていること。②筋道に妥当性があること。ちょっと抽象的かと思いますので、より具体的に考えていきましょう。

Q3：なぜ「風が吹けば桶屋が儲かる」のか？

こんな言葉を聞いたことがありますでしょうか。「風が吹けば桶屋が儲かる」。聞いたことがある方がほとんどだと思っておりますが、この言葉だけを聞いて「なるほど」とか「筋道がはっきりしているな」とか「妥当性があるな」とは、ほとんどの方が思わないと思います。では**【Q3：なぜ『風が吹けば桶屋が儲かる』のか？】**を再び1分ほど考えてください。

はい、ありがとうございます。実際はスライド10のような筋道で桶屋が儲かると言われています。

(スライド 10)

1. はじめに

- 1) 風が吹く 2) 砂が舞う
- 3) 砂が舞うと、人の目に入る
- 4) 目に入った砂が原因で目が見えなくなる
- 5) 盲人は三味線を買う(昔は盲人の仕事として、三味線弾きがあった)
- 6) 三味線の材料になる猫皮を集めるために、猫が捕獲される
- 7) 捕食者である猫が減ると、ネズミが増える
- 8) 増殖したネズミが、沢山の桶をかじる
- 9) 新しい桶が必要になる
- 10) 桶屋が儲かる

出典：ロジカルシンキング（論理的思考力）を鍛える10個のトレーニング方法

さて、こうなると筋道がはっきりしてきて妥当性があると思われます。ま、納得できるんじゃないでしょうか。少し昔の話なので三味線などが登場しています。さて、少しワークをしましょう。

【ワーク1：自分なりに筋道を立てて妥当性があるように、先ほどとは別の理由で考えてみましょう】

お手元に用意されているシートに自由に書き込んでください。5分を目安に考えてください。

はい、ありがとうございました。これは5分では短かったかもしれませんね。誰もが納得できる論理的なものができたでしょうか。せっかくなので一つ例を出します。(スライド 13)

(スライド 13)

1. はじめに

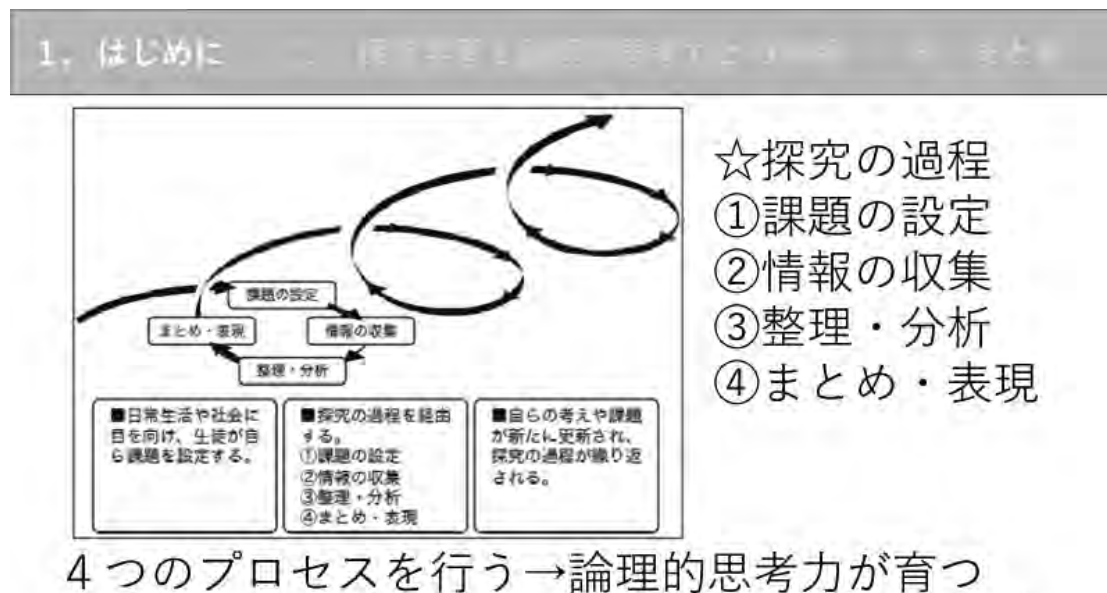
- 1) 風が吹く
- 2) 北風により流水が接岸する
- 3) 特に夜間には急激に気温が下がり、
室内でも氷点下の気温となる
- 4) 漬物桶、風呂桶、漁具の桶が凍結し、破壊される
- 5) 桶の需要が増える
- 6) 桶屋が儲かる

これもきちんと筋道が立っているので、論理的に成り立っていると言えるのではないのでしょうか。このように「風が吹くこと」と「桶屋が儲かる」ことをつなげるように、納得してもらえるように筋道を立てて考えることや構築する力を「論理的思考力」と言います。

これを論文作成に置き換えます。探究学習ではよく論文作成をされると思いますので。まずはテーマ設定をされますね。テーマの答えの仮説を立てること、ここら辺が最初にすることかなと思います。次に仮説を証明するためにはどういった実験やデータが必要なのかを考えて、収集したいいくつかの物事・実験データを集めます。例えば実験を4つやったとします。このデータを道筋立ててつなげたり、取捨選択としてデータは4つあるけれどデータ1よりも2の方が先にあった方がいいなとか、データ3とデータ4は不要になったけど新たに実験5をやってデータ5を入れた方がいいな、などと考える力が論理的思考力であり、それを文章にしたものが論文と言えます。

よって、いい論文が書けるということは論理的思考力が育っているということになります。また、今、提示したことは文部科学省が提示していて先生方はよくご覧になっていると思いますが、有名な4つのプロセス（スライド16）ですね。①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現、これをしっかりと行っているということができ、言い換えると「文部科学省が提示した4つのプロセスを行うと論理的思考力が育つ」と言えるんじゃないかと思います。もちろん当然他にもいろんな力が育つと思います。

（スライド16）



2 探究学習と論理的思考力との関係

2-1 論理的思考力を育てるためには

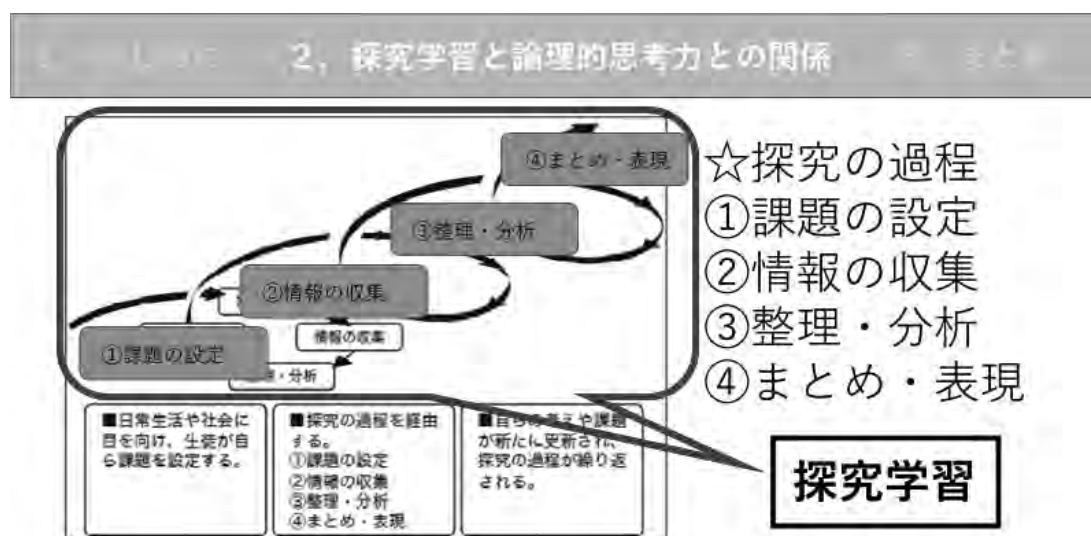
それでは、ここから「論理的思考力を育てるにはどうすればいいのだろうか」という話をしていきます。最近、探究に関する講演の話や相談などをいただくことがよくあります。そのときに一番よく聞かれるのがこれです。「課題の設定はどうすればよいのですか?」、「どうすればうまくいくのですか?」です。

Q4：課題を設定することは一番難しいと言われているが、それはなぜだと思いますか？

では、またここでちょっと考えていただきます。では今度は2分程度お考えいただければと思います。【Q4：課題を設定することは一番難しいと言われたり、思われていますが、それはなぜだと思いますか？】

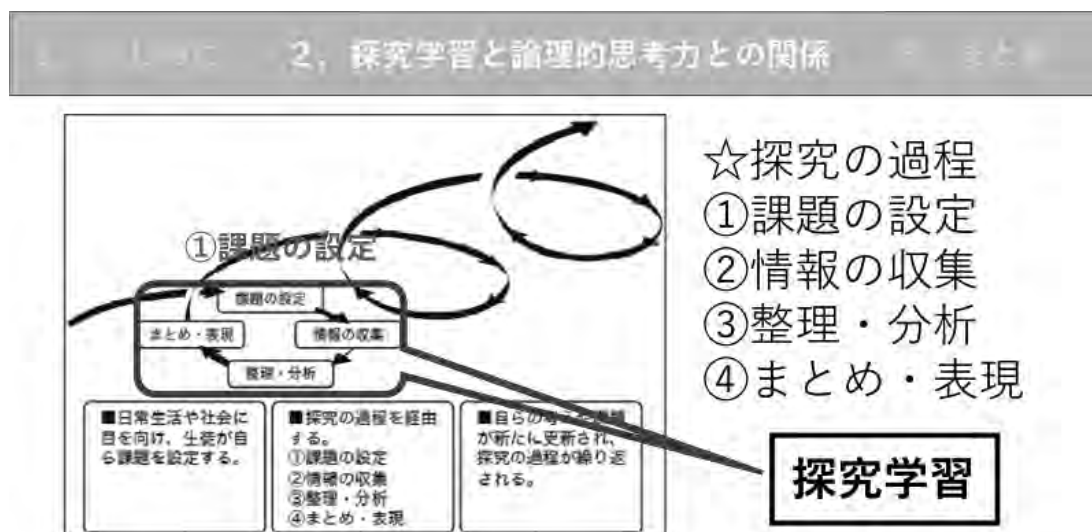
はい、ありがとうございます。先ほどご覧いただいたスライド16をもう一度ご覧ください。この図を皆さまはどのように解釈されているでしょうか。この図が探究学習を意味していることは分かると思いますが、探究学習をするというのは、図の右側の①～④を必ず行うというのは分かることなので、「探究学習をするぞ」というときはもしかしたらスライド19のような形で①課題を設定し、②情報の収集をし、③整理・分析をし、④まとめ・表現をして「探究学習は終わりだ」と思われている方が多いんじゃないかと思っています。

(スライド19)



でも、このスライド19をよく見ると、探究の過程の①～④はスライド20のように左のひとつめの円の部分に全部入っていますね。私はここが課題設定にあたると思っています。つまり課題設定に①～④のプロセスが全部入っている、と私は思っています。

(スライド 20)



ですから、探究の過程の「①課題を設定する」という行為こそが、探究学習そのものだと考えていいと思っています。

少々分かり難いと思いますので、課題を設定するまでのプロセスについて私が今、赴任している宮崎県立宮崎東高等学校定時制夜間部の例を出して具体的な話をしたいと思います。

課題を設定するまでのプロセスについては探究の過程の4つに沿って話します。

生徒に課題を設定させるためには、まず「①課題の設定」(スライド 21)で「課題を設定するためには、どのような方法や順番があるだろうか?」という課題を設定します。これはどこの学校でもこのようになると思います。

(スライド 21)

2. 探究学習と論理的思考力との関係

①課題の設定(宮崎東高校における)

①課題の設定

「課題を設定するためには、どのような方法や順番があるだろうか?」

☆探究の過程

- ①課題の設定
- ②情報の収集
- ③整理・分析
- ④まとめ・表現

次に「②情報の収集」(スライド 22)では、例えばうちの生徒の状況は夜間部ということもあって自己肯定感が低かったり、読書習慣がない生徒も多いです。また書籍・インターネットをみると、探究学習に有効ないろいろなシンキングツールがあることを情報収集しました。学校の目標や状況を知るためには学校要覧なども調べますし、ウチのクラスは少人数制で 10～20 名程度です。あとはこれまでのいろんな人との関わりあい、NPO や東京大学の先生、卒業生や行政、教育委員会など、去年はリクルートの『キャリアガイダンス』の山下編集長に相談いたしました。

(スライド 22)

2. 探究学習と論理的思考力との関係

①課題の設定(宮崎東高校における)

②情報の収集

- 生徒の状況
 - 自己肯定感が低い、読書習慣がない
- 書籍、インターネット
 - いろいろなシンキングツールについて知る
- 学校の目標や状況
 - 学校要覧、少人数(1クラス10～20名程度)
- 人脈
 - NPO、東京大学、卒業生や行政、教育委員会など

☆探究の過程

①課題の設定

②情報の収集

③整理・分析

④まとめ・表現

そして自分なりに「③整理・分析」(スライド 23)して、「自己肯定感が低い生徒が多い」ということに関しては、「自分が興味のあるもの、好きなものがなかなか見つけきれない、言えない」状況がありましたので、分からないんじゃないかと思いました。このままでは、彼らは生きがいを感じづらかったり、結果、進路実現が難しくなったりする状況になるんじゃないかと思い、そこで本校では「自分の興味のあるもの、好きなものを見つける時間にすればいい」と思いました。そして、それを見つけるために、本校の生徒に有効なシンキングツールを選択し整理しました。また、読書習慣がないことについては、シンキングツールを使ってそれを身につけるようにもしたいと思いました。あとはこのシンキングツールから得られる自分の強みなどの情報から、「問いを立てる」つまり課題を設定するということですね。そのために東京大学の梶谷教授から哲学対話を学ぶというかたちで課題を設定するという流れはどうだろうか、と整理・分析をしました。

(スライド 23)

2. 探究学習と論理的思考力との関係

①課題の設定(宮崎東高校における)

③整理・分析

- 自己肯定感が低い生徒が多い→
自分の興味のあるもの好きなものがなかなか
言えない(分からない)。→
生きがいを感じづらく、結果進路実現が難しい。
- 自分の興味のあるもの好きなものをまずは見つける。
- 見つけるために、本校の生徒に有効なシンキングツールを整理する。
- シンキングツールを利用して読書習慣も身につけたい。
- シンキングツールから得られる自分の強みなどの情報から問いを立てる(課題を設定する)ために、東京大学の教授から哲学対話を学ぶ。

☆探究の過程

①課題の設定

②情報の収集

③整理・分析

④まとめ・表現

そして最終的に「④まとめ・表現」(スライド 24)では、先生方に提示するために年間計画を立てました。

(スライド 24)

2. 探究学習と論理的思考力との関係

①課題の設定(宮崎東高校における)

④まとめ・表現

- ☆課題設定までの年間計画を立てる
- シンキングツールで自分の強みの情報を収集
「マインドマップ・SWOT分析・マンダラート」
※マンダラートは読書と絡める(後述)
- 東京大学の梶谷教授の哲学対話
考えること、問いを立てることは自由だと言うことを経験し、
本質的な問いを立てる訓練を行う。
- 自分の強みの情報を用い、問いを立てて教諭との面談を行いながら、**課題を設定する。**

☆探究の過程

①課題の設定

②情報の収集

③整理・分析

④まとめ・表現

シンキングツールで選んだものは、マインドマップ、SWOT 分析、マンダラートを選びました。それから哲学対話です。生徒には、ほとんど話さない生徒もいるし、逆に話し続ける生徒もおりますので、梶谷教授の哲学対話をする事でまずは人と対話することは普通のことで、当たり前のこと、怖いことはない、ということを知ってもらい、それから自分で考えて問いを立てることは自由だと経験してもらい、本質的な問いを立てることを行おうと思っています。その後シンキングツールから得る自分の強みの情報を用いて問いを立て、学校の先生と面談しながら課題を

設定していこうと思っています。

以上が課題を設定していく過程ですが、その過程においても文科省が言っている4つのプロセスが経験できるということを、分かっていただけたんじゃないかと思います。よって「課題の設定」は探究の基礎だと言ってもいいんじゃないかと思っています。ですから探究学習に慣れていないと課題設定はやはり難しいんです。先ほど先生方に【Q4 課題を設定することは一番難しいと言われたり、思われていますが、それはなぜだと思われますか？】とたずねましたが、それは課題設定をするだけでも、このぐらいしないとなかなか課題設定ができないからだと思います。

また、スライド26は学習指導要領から持ってきたものですが、「2 総合的な探究の時間で育成することを目指す資質・能力」の「思考力、判断力、表現力等」の項目にこのように書かれています。

(スライド26)

2. 探究学習と論理的思考力との関係

「思考力、判断力、表現力等」

育成を目指す資質・能力の三つの柱のうち、主に「思考力、判断力、表現力等」に対応するものとしては、実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現するという、探究の過程において発揮される力を示している。

ここで重要なのが、実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立てることである。問いや課題は、生徒がもっている知識や経験だけからは生まれないこともある。そこで、実社会や実生活と実際に関わることを求めている。その中で、過去と比べて現在に問題があること、他の場所と比べてこの場所には問題があること、自己の常識に照らして違和感を感じる問題があることなどを発見し、それが問題意識となり、自己との関わりの中で課題につながっていく。こうして、問いや課題が定まると、探究がスタートする。

2 総合的な探究の時間で育成することを目指す資質・能力 より

課題の設定→思考力等の育成+4つのプロセス=論理的思考力

全部大事ですが、5行目のところがより大事だと思い、今回の講演にも関わるところなので文字を強調しています。そこだけちょっと読みます。『**実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立てることである**』とあります。この文章を読むだけでも、課題を設定することで思考力、判断力、表現力等がつくと言え、さらに先ほど話したように課題の設定で4つのプロセスを経験する。これは論理的に行っていることの証明にもなります。ですから、課題を設定するだけで論理的な思考力がつくと言えます。

さて、先ほど宮崎東高校の「課題の設定」の例で出したシンキングツールの中の一つ「マンドラート」について説明いたします。

ンダラート」とからめて、「読書シート」（スライド 31）というものをつくる作業をしています。ここには「マンダラート」のキーワード①から⑨に関連する本を探して読むことをしています。このことで本校ではあまりなかった読書習慣をもっとつけさせたいと思っています。

こういったことをいくつか行い、情報収集・分析して、課題設定につなげていきます。

（スライド 30）

2. 探究学習と論理的思考力との関係

大谷翔平選手 (エンゼルス) が高校時代に 作成した マンダラート

体のケア	サブライム を飲む	FSD 90%	インスリン 改善	体幹強化	戦況 が読める	角度を つける	上から ボールを 打てる	リストの 強化
柔軟性	体づくり	FSD 130%	リリース ポイント の安定	コントロール	不安を なくす	力まない	キレ	下半身 主導
スタミナ	可動域	食事 夜は寝る	下腿の 強化	体を 開かない	スラッ コントロール をする	ボールを 前で リリース	回轉 アタック	可動域
はっきりと した目標 目的を持つ	一言一葉 しない	頭は冷静に 心は熱く	体づくり	コントロール	キレ	軸でまわる	下腿の強化	体重増加
ピンチに 強い	スラッ	雰囲気 に流されない	スラッ	ドリ ドリ	スピード 160km/h	体幹強化	スピード 160km/h	肩回りの 強化
姿を つかない	勝利への 執念	仲間を 思いやる心	人間性	運	変化球	可動域	ライナー キャッチ ボール	ピッチング を確実
完成	愛する 人間	誠実性	あいさつ	ゴロ拾い	盗塁成功	カブト ボールを 捕る	フォーク 完成	スライダー のキレ
思いやり	人間性	感謝	道具を 大切に使う	運	審判さん への敬意	盗塁成功 あるカーブ	変化球	左打者への 対応
礼儀	信頼 される人間	誠実性	プラス思考	応援される 人間になる	本を読む	ストリートと 同じフォーム で投げる	ストリート ボールに 近い コントロール	奥行き イース

（スライド 31）

2. 探究学習と論理的思考力との関係

①、②はマンダラートの数字のキーワードに対応それぞれのキーワードに関する書籍を読む

① 読書シート () 年 () 月 () 日 () 番 () 氏名 ()				
書名	著者	出版社	発行年	備考
得た知識				
分からなかった言葉と調べた意味				
②				
書名	著者	出版社	発行年	備考
得た知識				
分からなかった言葉と調べた意味				

よって、繰り返しになりますが、課題を設定するだけでも「総合的な探究の時間」の目標はほぼ達成できると思います。前の学校では SGH や SSH などの指定があり、また各都道府県で指定

されている学校もあると思いますが、そういったところでは成果物を作成してパイロット校になっていかないといけない、そういうところもあると思いますが、本校では課題の設定という作業を丁寧にやることをまずは目標として行えば、4つのプロセスを経験させることができるはずです。ただ、意外と勘違いしていることは、この4つのプロセスを順番にやらなければいけないと思っている人が多いことです。その点について学習指導要領には次のように書かれています。『この①②③④の過程を固定的に捉える必要はない。物事の本質を探って見極めようとするとき、活動の順序が入れ替わったり、ある活動が重点的におこなわれたりすることは、当然起こりえること』と明記されています。なお文中の①②③④は「課題の設定の①②③④」を意味しています。

また、2018年に学習指導要領が改訂され「理数探究」という科目が入ってきますが、それが「総合的な探究の時間」と何が違うかと言いますと、スライド34のように①②③④のプロセスはだいたい似ています。名前がちょっと違うくらいです。

(スライド 34)

2. 探究学習と論理的思考力との関係	
「総合的な探究の時間」と「理数探究」における探究の過程	
総合的な探究の時間	理数探究
①課題の設定 体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ。	①課題の設定 自然や社会の様々な事象に関わり、そこから数学や理科などに関する課題を設定する。
②情報の収集 必要な情報を取り出したり収集したりする。	②課題解決の過程 数学的な手法や科学的な手法などを用いて、仮説の設定、検証計画の立案、観察、実験、調査等、結果の処理などを行う。
③整理・分析 収集した情報を、整理したり分析したりして思考する。	③分析・考察・推論 得られた結果を分析し、先行研究や理論なども考慮しながら考察し推論する。
④まとめ・表現 気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する。	④表現・伝達 課題解決の過程と結果や成果などをまとめ、発表する。
※指導上の配慮事項 探究の過程は①～④が順序よく繰り返されるわけではなく、順番が前後することもあるし、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われる場合もある。	※指導上の配慮事項 探究の過程は①～④の必ずしも一方向の流れではない。探究のための具体的な方法を固定して考えず、探究の過程を適宜振り返りながら改善させる。

新学習指導要領の趣旨の実現
とSTEAM教育についてー
「総合的な探究の時間」と
「理数探究」
令和元年10月15日より

ただ、最下段の「指導上の配慮事項」の部分に『探究の過程は①～④の必ずしも一方向の流れではない』と、ここにもきっちり書いてあります。だから4つのプロセスを順番通りに行うことが大切なのではなく、経験させることが重要となってきます。

探究については他にもいろいろありますので「探究のステップの例」(スライド35)を一覧にしてみました。図の一番左の縦列が文部科学省が言っている「総合的な探究の時間」のプロセスですね。その右隣りが先ほど提示した「理数探究」です。啓林館の『課題研究メソッド』も同じく4つのプロセスで載せています。『中高生からの論文入門』という本を読んだんですが、そこではちょっと多くて6つでした。そしてヨーロッパでやっている教育の国際バカロレアでもやはり4つのステップでした。しかし、どれも似ていると思います、言い方を変えただけのものも多いよ

うな気もします。この4つのプロセス自体も柔軟に考えて、先に申しましたように論理的に筋道を立てて物事を考え、やり通すことができればいいんじゃないかと思っています。いろんなパターンがあることを知っていただき、学校や生徒の実状に合ったものを選択することが重要なのかもしれません。

(スライド 35)

2. 探究学習と論理的思考力との関係

「様々な探究のステップの例」

総合的な探究の時間	理数探究	課題研究メソッド	中高生からの論文入門	国際バカロレア
課題の設定	課題の設定	テーマの設定	疑問	推測
情報の収集	課題解決の過程	調査や研究	情報収集	調査
整理・分析	分析・考察・推論	結果のまとめ・考察	課題の発見	質問
まとめ・表現	表現・伝達	研究論文の作成	課題の精錬	関連付け
			解決の模索	
			結論	

2-2 論理的思考力の使い方

Q5：総合的な探究の時間を経験することで得た力は、こういった場面で有効なのでしょうか？

それでは「論理的思考力の使い方」ということで再び皆さんに考えていただきます。**【Q5：総合的な探究の時間を経験することで得た力は、こういった場面で有効なのでしょうか？】**では、先生方ここでちょっとお考えください。

はい、ありがとうございます。いろいろな答えがあると思いますが、「答えのないもの、前例のないものに対するとき」に有効と考えています。具体的に3つの例を出して話します。

先生方の中には悩まれている方もいらっしゃるんじゃないかと思いますが、「総合的な探究の時間のプログラムを構築しなさい」と2019年度入学生から全学校でやりなさいということですが、スライド38のような流れが普通ではないかと思います。見えないとやはり怖いんですが、文部科学省が提示しているこの4つのプロセスを一つずつやっていけば、答えのないものや難しいものでも怖がらずにやっていけるんじゃないかと思います。

(スライド 38)

2. 探究学習と論理的思考力との関係

例1 総合的な探究の時間のプログラムを構築する

①課題の設定

総合的な探究の時間を1から構築するにはどうすればよいだろうか？

②情報の収集

書籍、インターネット、先進校視察、学校(生徒)の様子

③整理・分析

流れの確認、生徒の実態に合うか、学年ごとのつながりはどうか

④まとめ・表現

年間計画の作成、発表会

スライド39は2つめの例ですが、例えば今の新型コロナも目に見えないものですし、先が見えないことですから今後の対処も大変だと思います。私もこの前の4連休は一切外に出ていません。先が見えないことを不安に思っています。

(スライド 39)

2. 探究学習と論理的思考力との関係

例2 新型コロナ対策

①課題の設定

未知のウイルスにどのように対応していけばよいだろうか？

②情報の収集

世界の様子、病院の情報

③整理・分析

②について有効なものはどれか、優先順位はどうか

④まとめ・表現

アプリの開発、緊急事態宣言、ロックダウン、実行(決済)

未知のウイルスにどのように対応していけばいいかという課題は、今みんなが考えているんじゃないかと思います。今は政府とか各国で世界の様子や病院情報などのたくさんの情報を収集しているんじゃないかと思います。その中でいい情報、悪い情報、いや悪いと言ってはいけません

ね、使えない情報などを取捨選択したり優先順位はどうなのかと。たぶん Go To キャンペーンについても、実施しないと旅行会社が本当につぶれていくという背景もあったのかもしれませんが、ちょっとわからないですが。最後にアプリの開発やワクチンの開発、ロックダウンの実行など、どんなふうにしていこうかという決断なんかが①～③を経て④になっていくのではないのでしょうか。

また、3 つめの例（スライド 40）ですが大学入試もそうだと思います。これはどちらかというと先生方がご専門で非常によく分かっていらっしゃるのだと思います。

（スライド 40）

2. 探究学習と論理的思考力との関係

例 3 大学入試

- ①課題の設定
志望大学に合格するにはどうすればよいだろうか？
- ②情報の収集
インターネット、赤本、過去問、対応模試、合格平均点
- ③整理・分析
自分に足りない点数(教科)を模試等で把握する
- ④まとめ・表現
傾向と対策を自分なりに作成する

まず、①志望大学に合格するにはどうすればよいのだろうか、というのが課題の設定だと思います。②は今の時代はインターネットがありますね、私の時代は赤本しかなかったんですが。それから過去問や志望大学に対応する模試、そして合格平均点や合格最低点。これらはネットでも十分見られるんじゃないかと思います。③それらの情報を収集して生徒が自分に足りない点数や教科を模試等で把握することが大事なのかと。そして④では、把握したことに対して傾向と対策を自分なりに作成する。このあたりを自分の力できると、今後その生徒が社会に出てからこのプロセスが非常に役に立っていくんじゃないかと思います。だから大学入試もプロセスの経験として利用すればいいんじゃないかと思っています。私は前の学校では13年間いて、担任は3回しかやっていないんですが、担任をやったときは生徒に年間計画を立てさせて、情報を仕入れさせ、1日に何をしていけばいいのか、何をしたら自分は合格するのか、つまりどの教科をどのくらいやっていったら合格するのか、といったことを計算させたりもしました。例えば海外の大学では日本のように過去問などはなかったり、情報がなかったりします。そんなときはうろたえたり、ちょっと引いたりすることもあるんですが、そういうときは、彼らが社会に出たときに答えがない場合が当たりまえで、「答えがなくてもこういったプロセスでやっていけばいいんだよ」と、私た

ちが胸をはって言えるようになっていればいいんじゃないか、と思います。

傾向と対策というものは、本来与えられるものではなく、自分でつくり出していくものですが、私たちは「こんなものがよく出るよ」と与えることが多かったと思います。特に答えがないとか情報がない場合は大変だと思いますが、その大変なものに立ち向かって行く気持ちを養っていくことも大事だと思います。国際バカロレアには育てたい像のなかの一つにリスクテイカーがあります。「リスクから逃げない人間を育てたい」とわざわざ明記されています。そういった強い人間を育てていくというのも我々の使命の一つじゃないかと思っています。そういった力をつけていくために、「総合的な探究の時間」がある、もしくは利用するということも必要な視点だと思います。

実は私は 2 日前に車を購入する契約をしてきました。5 月ごろから「車を購入する際にはどうすればいいのか」という課題を設定して、ディーラー、パンフレット、ネットから情報を収集し、どの車にはこの装備があって、というものをエクセルで一覧表をつくりました。ご存知でしょうか、安全性のための装備がものすごくありますが車の会社によって、その名前が違ってきます。わざとなのかわかりませんが。それで機能・性能が同じかどうかを表にして比べることで納得して購入しました。このように、このプロセスの考え方はいろんな場面に使える、必要なものじゃないかと思っています。

新型コロナ禍で迎えるシーズンへの想いについて、大谷翔平は 7 月の WEB インタビューでこう言っています。「何が正解かはよくわかっていない」と。哲学でよく言われますが、ものの事多くは正解がないもの、導きづらいものが多いです。そして完全解ではなく納得解を導くことが今からは大事です。そういったことを自分の経験から、例えば高校教育で「総合的な探究の時間」などを通して経験している人、もしくは知っている人は一流になりやすいんじゃないかと考えています。

3 まとめ

皆さまがよくご存じの Google の入社試験では、スライド 43 のような問題が出されました。また、スライド 44 はマイクロソフト社の面接試験です。どちらも本に掲載されていました。

どの問題も、答えのない、もしくは答えを導くのが単純ではないものを問いかけています。メリタ・オーデンの研究によると、成功している人間と成功していない人間とでは、IQ の差は認められなかったと言っています。つまり頭がいいから成功する、しない、ということではない。それを分けたのは何かというと、小さい頃の励ましだとか自信や粘りなどの因子だったと言っています。だから単なる頭がいいだけではダメで、粘り強さ、この両方が成功するには必要だと言っています。

ということは、答えのないもの・探究学習に向き合うということは、当然頭の良さも必要ですし、粘り強くないとやり通すことができません。答えは直ぐに出てくるようなものではありません。本を読んだりネットで調べてすぐに答えが出てくるものじゃありません。自分自身で調べて咀嚼して、結論を出さないといけないので、そういったことは成功するためにはとても大事じゃ

ないかと思います。

(スライド 43)



◎Googleの入社試験より

- ・ 1台の学校送迎バスの中にゴルフボールは何個入るか？
- ・ シアトルにあるすべての窓ガラスを拭くとして、あなたはいくら代金を請求しますか？
- ・ 8歳の甥に「データベース」の意味を3つの文で説明しなさい。
- ・ あなたの個人的な見解では、これまでに導出された数学の方程式の中で、いちばん美しいのはどれですか？

(スライド 44)



◎ビル・ゲイツ（マイクロソフト社）の面接試験より

- ・ なぜ鏡は左右を逆転させて、上下を逆転させないのでしょうか。
- ・ ビル・ゲイツの浴室を設計するとしたらどうしますか。
- ・ マンホールの蓋が四角ではなく丸いのはなぜでしょう。
- ・ 世界にピアノの調律師は何人いるのでしょうか。

私が考える総合的な探究の時間の4つのポイント（スライド 52）は、まず「1 答えのないものや簡単に出ないもの、かつ、自分の興味があるものに対する課題を見つけること（課題の設定）が大事」だと思います。

ここで一つの自由研究を紹介します。『メロスの全力を検証』中学2年生 村田一真くんの研究

で、内容は『走れメロス』（太宰治）のメロスが走るスピードを計測したものです。

では「なぜそういう計算ができるのか」について一部抜粋しました（スライド 48）。

（スライド 48）

1. はじめに 2. 探究学習と論理的思考力との関係 3. まとめ

なぜそういう計算ができるのか 一部抜粋

「目が覚めたのはあくる日の薄明のころ」→初夏
なのでほぼ夏至の頃の日の出時間少し前と推定。イタリ
ア南部は北緯38度付近で日本の仙台とほぼ同じ。今年
の仙台の夏至の日の出が発表された資料によると
AM4:12であり、目が覚めたのはAM4:00と推定。等

赤字の部分は本に記載されている文章ですが、そこから彼はご覧いただいている画面のように分析をして次のように結論づけています。

「・・・以上の条件から十里(39km)を10時間かかって到着したため、往路の平均時速は3.9km/h。復路の平均時速も同様に検証した結果、5.3km/h」としている。そしてフルマラソンの選手の速度が9km/hというデータから、彼は次のように結論づけています。「メロスは往路は歩いていた」

「復路の最後は走ったけど、それはただの早歩き程度だった」と。さらに彼は感想として『走れメロス』ではなく、『走れよメロス』の方があっている」とまとめています。とてもユーモアもあると思います。

この研究の評価はスライド 50 の左下にあるように、「2013 年度 一般財団法人理数教育研究所開催＜算数・数学の自由研究＞作品コンクール 最優秀賞」となりました。素晴らしい内容でした。研究は公開されています。さて、この研究はこのように分析することができます（スライド 50）。出典は『もっとヘンな論文』（サンキュータツオ著）です。

「最も大事なものは、『問い』を自分で立てたこと。その『問い』になんとか自分で正解を導くためにテキスト（小説）を読み込み、算出の手がかりを探そうとしたことである。問題として出されたものを解くのではなくて、自分で自然と疑問が生じたものに向き合う。国語で考えたことを数学で検証することもできる、というのがこの研究の示唆するところ。つまり『疑問』は教科を越境する」と書かれています。

(スライド 50)

3. まとめ

2年D組 18番
村田 真
2013年度 一般財団法人
理数教育研究所開催
「算数・数学の自由研究」
作品コンクール 最優秀賞

もっとも大事なものは、「問い」を自分で立てたこと、その「問い」になんとか自分で正解を導くためにテキストを読み込み、算出の手がかりを探そうとしたことである。

問題として出されたものを解くのではなくて、自分で自然と疑問が生じたものに向き合う。

国語で考えたことを数学で検証することもできる、というのがこの研究の示唆するところ。つまり、「疑問」は教科を越境する。

もっとヘンな論文 サンキュータツオ著 より

ここで私が考える総合的な探究の時間のポイントの残り 3 つ (スライド 52) に行きます。「2 SSH など研究指定を受けず予算や器具がなくとも、探究はできる」。先進校の視察をすると、そのような機械や機材等がないとできそうにないな、外の会場を貸し切って発表会をするなど大それたことはできないな、無理だな、教員の数が足りなくてとてもきついな、等となりがちですが先ほどの自由研究のように十分に立派な研究ができると思います。

(スライド 52)

3. まとめ

☆総合的な探究の時間の西山が考えるポイント

- 1 答えのないものや簡単に出ないもの。かつ、自分の興味のあるものに対する課題を見つける(課題の設定) ことが大事。
- 2 SSHなど研究指定を受けず予算や器具がなくとも、探究はできる。
- 3 基本は読書。知識が豊富なほど探究活動は深まり、自然と横断型となる。
- 4 「教員が教えないといけない」と考えてしまうと動けなくなるので、一緒に生徒と探究しようという姿勢でやってみる。※teachingからcoachingというイメージで ※国際バカロレアの授業

さらに「3 基本は読書。知識が豊富なほど探究活動は深まり、自然と横断型となる」。だから、横断型をしよう、しようとならなくても、後付けでも大丈夫だと思います。入ってくると思います。

最後のポイントは「4 総合的な探究の時間は教員が教えないといけないと考えてしまうと動けなくなるので、一緒に生徒と探究しようという姿勢でやってみる」。教えないといけないと考えてしまうとなかなか進めません、動けません。当然ですよ、教科書はありませんし、我々自身が習ってきていません。辛いですよ、私も辛い時期がたくさんありました。前任校では一から勉強したりもしました。だから、いい論文発表をめざすのではなくて、「まずはいい課題設定をめざす」、というくらいの考えでやるくらいがいいんじゃないでしょうか。それで文科省のプロセスはたぶん行えると思います。

生徒だけでなく今から我々教員も一緒になって探究をしていく、という考え方や行動力が大事になってくると思います。そして、teaching から coaching というイメージに移行していかないと、今から探究をやっていくという先生方は大変になって、なかなか前に進めなくなっていくと思います。国際バカロレアの授業を観たことがあります、そのときの授業は家庭科で、生徒が自分たちでつくる料理の CM をつくるという授業でした。自由で、一から考えるところがとても楽しそうで深まりそうな印象を受けました。そういった教育が世界でも普通になっているということを先生方に知っていただけるとありがたいと思います。

このように「教え込む」ことから「一緒に学ぶ」こと、「生徒が考える」授業を構築すること、学ぶ意味を教えること、我々教員が変化するためにも「総合的な探究の時間」は有効だと思っています。

私は定時制で理科の授業をやっていますが、生徒は何のために授業を受けているのか。「記憶力を高めるのかな」、「知識を増やすのかな」、「考え方を学ぶのかな」というのを生徒それぞれに意識させて生徒主体で、自分で教科書を使ってやっていくようにしています。私はまったく教えていませんが生徒は不満ももらさず一所懸命にやっています。「何のために学ぶのか」ということを意識させると、人は動くんじゃないかなと思っています。

一応私もですが、この講演のために、論理的にいろんな情報を収集し分析し、筋道を立てて納得できるようにつくったつもりですが、いかがでしたでしょうか。まだまだ私もこういった考え方に慣れず、このプレゼンテーションをつくるのに相当時間がかかりました。セッション 1 の渡邊先生の立派なプレゼンテーションと違って、あっさりしていて、このぐらいしかつくれませんが、少しでも先生方が納得してくだされれば幸いです。本日は長時間、ご清聴どうもありがとうございました。

(終わり)

福岡市立福岡西陵高等学校 校長

和田 美千代 先生

未来に向き合う生徒を育てるために

教師自身のインテイクスイッチを入れる

第1部 オンライン・インテイクスイッチ

- 1 はじめに
- 2 西陵高校 オンライン学習
 - ①なぜ開始できた？
 - ②なぜ職員は動いてくれたのか
 - ③ここがポイント 職員心理
- 3 自己紹介
- 4 授業をAL化するコツ インテイクスイッチ
 - ①当事者になると脳が活性化
 - ②人生をかけたアウトプットだから
- 5 AL授業実践のポイント

第2部 城南・ドリカム・職員のインテイクスイッチ

- 1 ドリカムプラン誕生の背景
- 2 ドリカムプランはなぜ生まれたか？
- 3 どうやって組織化したか？
- 4 ドリカムとは何だったのか？

未来に向き合う生徒を育てるために
教師自身のインテイクスイッチを入れる
福岡市立福岡西陵高等学校 校長
和田 美千代

第1部 オンライン・インテイクスイッチ

1 はじめに

私が4月から勤める福岡市立福岡西陵高校は、各中学校のオンライン職員研修会の講師として職員を派遣します。西陵高校と中学校の研修会場をZoomで結んでやるんですが、毎回トラブルが起こります。「このトラブルはどうしたら解決するんだ？」ということが毎回あって、おかげで私たちは日々成長しています。本日も不具合が起こるかもしれませんが、オンラインで参加の皆さまも会場の皆さまもこれを学習の一つと思ってご協力いただきたいと思います。

本日は70分の時間を与えておりますが、私はものすごくおしゃべりなんです。生徒からはマシンガントークと言われておりました。また「どこで息継ぎをしているのか」とも言われて「大丈夫、死にやせん」とよく答えていましたが、40歳から喘息持ちとなり、今日も実はゴボゴボやっています。でもこの時期に咳をするとコロナじゃないかと警戒されます。アレルギーがあって例えば台所でまな板を漂白するだけで喘息は起こります。そういう敏感な体質ですがどうぞご心配なく。

さて、今日のタイトルは「あなた自身のインテイクスイッチ、ドリカム・AL・オンライン」です。先ほどある高校の先生方と話をしていた私が「おいくつですか？」と聞いたら、「25歳です」ということがありました。ドリカムプランを始めたのは平成6(1994)年なのでもう25～26年も経ちます。その頃に生まれた方が教員として働いていらっしゃるのの考えると、「ドリカムプラン」をご存じない先生方が大半ではないかと思います。ただ青森県のある校長先生が、9月の青森での研修会に私が講師で来るという話を聞いたら、「そのワダ先生というのはあの和田先生かな？」と言われたそうで、ドリカムプランの私というのをご存知な先生もいらっしゃると思って嬉しく思いました。

今日の課題は、まずは①西陵高校のオンライン学習の話をして、それから②インテイクスイッチの話をし、そしてドリカムプランの話をしてと思います。最後に③「自校のバラも赤い」。このタイトルを私は大変に気に入っているんですが、それぞれの学校の職員の話です。まあ「オンライン」を20分、「ドリカムプラン」20分、「自校のバラも赤い」20分、そうすると所定の時間となると思いますのでよろしくお付き合いいただきたいと思います。

本日の目標は、スライド3にあるように皆さんが下記ルーブリックの内容目標である「インテ

イクスイッチを理解し、明日から自分が取り組むことを説明できる」となっていただきたいと思っています。ループリックはC、B、A、Sとありますが、ぜひこのSのところまで到達していただきたいと思います。

(スライド3)

本時の目標とそのループリック

内容目標	インテイクスイッチを理解し、明日から自分が取り組むことを説明できる			
ループリック (評価基準)	S	A	B	C
	教科授業校務分掌ともに取り組む事が説明できる	校務分掌で自分が取り組むべき事が説明できる	教科・授業において自分の取り組むべき事が説明できる	インテイクスイッチを説明できる
態度目標	発言する、傾聴する、質問する、ほめる、協力する、貢献する			
ループリック (評価基準)	S	A	B	C
	チーム内でファシリテーター役ができた	質問して人の発言を促すことができた	発言のよいところをほめることができた	発言に耳を傾け、自分も発言することができた

2 西陵高校 オンライン学習

先生方、休校要請に対し本当に忙しい、怒涛のような期間だったと思います。2月27日、安倍首相の休校要請が出た日は、実は私の60歳の誕生日でした。それで、近所に住んでいる娘がお祝いをしてくれるということで、近所のお寿司屋さんに居たんです。そしたら同僚から電話があってお寿司もそこそこに、すぐに当時校長をしていた城南高校に取って返しました。そのとき私はめっちゃワクワクしていました。「チャンス！やったー！」という感じです。それはどうしてかと言うと、私は平成27(2015)年から私自身がオンラインで学んでいました。ちょうどZoomが日本で使われ始めた頃に学び始めて、この産能のフォーラムで初めて話をきいた小林昭文先生が、オンラインでアクティブラーニング(以下AL)について講座をされると聞いて、ICT苦手な私はおそろおそろ参加しました。

それが私にはものすごい衝撃だったんです。東京や大阪に行かなくても小林先生がこのパソコンの画面の向こう側にいらして、リアルな講義と同じように話してくださる。こちらからも質問できる。それを初めて体験したときのショック。学校でもない、自宅でもない、スタバでもない別空間に学びの場があるということを知ったとき、これからこういう空間が教室になって、実際その場に行かなくても、自宅にいて、ときには寝たまま参加できる。まるでドラえものの「どこでもドア」だなといったショックを受けました。その時は福岡県の教育センターにいました。ALを普及啓発するというのが私の仕事でしたが、このときの衝撃を人に話しても、まったくわかってもらえませんでした。その後、城南高校に校長として赴任することとなって、城南高校でスマ

ホを解禁したいと言ったら、生徒指導主事に「それはできません」と言われました。私は Zoom を使って何かをやりたいと思っていたんですが、なかなか実施できなかった。それが 2 月 27 日の休校要請でこれはオンラインの機会がきたと、そのとき私はものすごいハイテンションになって、まるで何かが憑いたようなトランス状態になりました。そのとき私はフェイスブックにこんなことを投稿しています。

「全国の学校の先生方へ 休校対応、怒涛の日々と拝察申し上げます。今こそ現場の力みせてやろうじゃないですか！ 日本の教育を責任持って担っているのは、誰でもない、私たち自身です」という激を全国の先生方に飛ばしました。

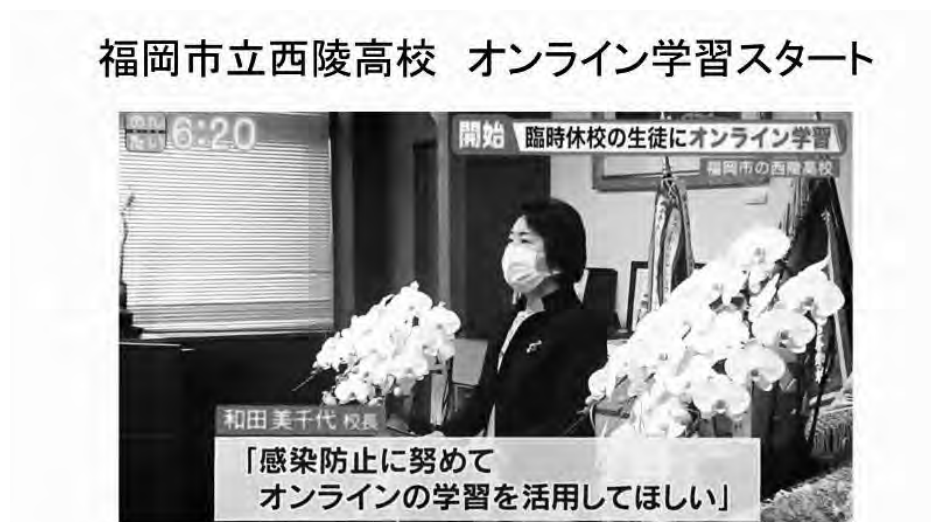
そういうなかで県立高校を定年退職し、4 月 1 日に今の福岡市立福岡西陵高校に転職したわけです。県立から市立への転勤ではなく、県立は退職して次の仕事を探すときにちょうど市立高校が校長を募集していたので生徒と同じように志望理由を書いて、面接を受けて合格して西陵高校の校長をやっています。

この写真は（スライド 5）4 月 13 日にお昼の全国ニュースで流れたものです。たしか新聞・テレビが全社取材に来ました。写真はちょうどオンラインで始業式をする場面で西陵高校の校長室です。

全国のなかにはすでにコロナ禍が起こる前からオンラインでやっていた学校があると思いますが、私はコロナ禍を機に公立高校でオンライン学習をやると言ったので、ニュースの中で騒がれました。

ではなぜ開始できたのか？ それはほんとにタイミングが揃い過ぎていました。

（スライド 5）



①なぜ開始できた？

「天の時、地の利、人の和」という言葉がありますが（スライド 6）、この場合の「天の時」はやはり、コロナウイルス、コロナ禍がやってきたことです。「地の利」は福岡市の市立高校に私が勤務していたということ。県立高校から転勤して驚いたのは、普通教室に Wi-Fi が入っている。

これは県立の職員からすると「ひえー、全部入っているんですか！」です。それからまた普通教室にプロジェクターが整備されている。県立のときはプロジェクターのセットをゴロゴロと教室まで持って行って設置していたのが、すでに Wi-Fi とプロジェクターがある。それから先生方が既に Zoom を扱える。4 月 3 日に副校長先生の手元を見てそれは何ですか？と聞いたら、「iPad ですよ」と。職員は一人 1 台 iPad を持っている。こういった状況が揃っていました。西陵高校では既に Zoom で終業式・合格者説明会をしていました。他の高校ではおそらく放送または外でやったと思いますが、つまり福岡市がそういう ICT 環境整備をしていたということです。

次に「人の和」ですが、吉本悟先生（城南高校 33 期生）がいらした。私は城南高校生が 31 期生のときに学年主任を務めていたので、その子たちを卒業させるときの、1 年生が吉本先生でした。この吉本先生がめっちゃ ICT に詳しい。あの頃はまだ 4 月になったら学校は再開されると思われていました。なので、せっかく新しい校長を迎えたので始業式は体育館でやりましょうと言われましたが、学校が Zoom を扱えるなら「私は Zoomer 校長としてデビューしたいです」と言いました。そしたら 4 月 2 日に休校の延長が決定しました。

（スライド 6）

なぜ開始できた？ タイミング揃いすぎ！

- ・天の時 コロナ禍
- ・地の利 福岡市の市立高校 ICT 環境整備
 - 教室の wi-Fi プロジェクター
 - 職員一人一台 iPad
 - 既に zoom で終業式、合格者説明会
- ・人の和 吉本悟先生（城南 33 期）
 - zoomer 校長和田着任
 - 西陵職員神業の動き

これを聞いて、私は 4 月 2 日職員終礼の夕方に「オンライン学習をやりましょう」と言い、翌日の 4 月 3 日にレジュメなしの校務委員会を開いて、各部の先生に「全権委任します。自分たちが、これが生徒にとっていいことだと思うことをやってください」と伝えました。「各学年、各教科のリクエストを全部教務主任に集約しましょう」と指示して、その週末の土曜・日曜を挟んだ翌月曜には教務が Zoom 時間割を皆さんに提出することができました。このときの先生方の動きは本当に神業だったと思います。たったの 3 日でこのシステムができ上がってきた。（スライド 7）

(スライド7)

憑き物がついたzoomer校長と神技職員

- ・4月2日(木) 夕刻「オンライン学習やりましょう」
- ・4月3日(金) レジメなしの校務委員会
各部に全権委任「良いと思うことをやってください」
「教務主任に各部のリクエスト集約」
- ・4月4日(土) 別件でzoom校務委員会
- ・4月6日(月) 教務がzoom時間提示

ここでクイズです。私、和田は西陵高校の職員に何と呼ばれているのでしょうか？ 「うちの学校にはコロナも来たけど〇〇も来た！」と言われています。どうぞ皆さん、お隣とご相談ください。ハイどうぞ。

「殺し屋」(笑)

アハハ、それほど激しくはないです。ヒントは明治維新です。

「黒船？」

そうそう、黒船です。皆さん正解された方に拍手をお願いします。私は西陵の職員から陰で黒船と呼ばれています(笑)。副校長先生が「黒船がきたけん、しゃぁない」と言って収めていらしたようです。今こうやって皆さんに笑っていただいた、この時間はアイスブレイクですが、これもALの基本的手法です。皆さんがいるこの場が安全安心の場づくりなんです。皆さん、職員研修会に自分たちの校長先生がいると想像してみてください。自由に意見は言えませぬね。そういうふうには権威と服従の関係や、「正解を言わなくちゃ」とかになると誰も意見を言えませぬ。「ここはフラットな場である」「何でも言っていていいという雰囲気」をつくるための、授業で言う下準備です。

②なぜ職員は動いてくれたのか

では「西陵高校の職員はなぜ動いてくれたのか」です。それはまず「なぜやるのかを明確にしたから」です。私は4月7日に福岡市の教育委員会にデモンストレーションに行ったんですが、その帰りに自分で「なぜ私はオンラインをやろうとしているんだろうか」とあらためて考えました。福岡は緊急事態宣言が出された都市で、感染者がバンバン出て休業要請が出て、もう大変な状況でした。私が先生方に言ったのは「うちの生徒が福岡に住んでいるからといって、全国区の大学受験で負けたくはないんです」。福岡にいるから不利だという状況にしたくはなかった。そのために「先生方にできることは何か、知恵を絞ってほしい」と言いました。

「なぜやるか」という目的は、休校中の学力保証、そして生徒たちのメンタルヘルス、この2点

のためにやるんだ、ということを先生方が納得してくれたからこそ動いてくれたということです。

それから丁寧な Zoom についての職員研修を特にベテランに向けて何回もやりました。

そしてこんなこともありました。先生に対して生徒会長が言いました「先生、たったこれだけの連絡のためにぼくたちを集めないでください。Zoom でやれることは Zoom でやりましょう」、「ぼくたちは生徒会役員の集まりを Zoom でやりましたが、説明無しでできました」。生徒たちはもうそういうレベルなんですね。先生たちに対しては操作の説明が必要だけど、生徒たちはその場でハイ、それ押してと、全て Zoom でやれるという状態だったんですね。

もう一つは、やはりやってみて楽しくて便利だったということです。楽しいことでないと広まりません。1年生の学年主任は数学ですが、「例年と同じ定期考査範囲ができた」と言ってくれたのが本当に嬉しかったです。各学年、8クラスあるんですが、その320人をまとめて1回で授業をやるんです。例えば家庭科の担当の先生は1人しかいないから「8クラスでそれぞれ同じことをしゃべっていた、それが1回でできる!」と。それから学年教科担当が一緒にできる。例えば国語科担当だったら、複数の先生と一緒に授業ができて、それが楽しい、楽だということ、そのころ西陵高校には大勢の学校訪問がありました。その方々に「ここでこういうことをしています」と校内を案内するんですが、4会場でやっているはずなのに、1人しか見当たらない、「どうしたんですか、今日は?」「先生方は在宅で家から授業をやっています」。このように家から授業ができる。それから複数の先生と一緒に同じ授業ができる。これめっちゃ働き方改革、便利ということになったんですね。

教科学習はもちろんですが、学年集会・全校集会ができました。教科によっては二者面談をしました。そしたら生徒の後ろに在宅勤務の保護者が来て、突然三者面談になったりもしました。総合的な探究の時間も予定どおりに実施することができました。

それから保護者会。夜7時からやりました。これは遠くの学校にわざわざ行かなくてもいいということで好評でした。進路説明会も生徒と保護者が並んで、自宅から参加して開催するということもやりました。

③ここがポイント 職員心理

私は職員にアイディアを求めたので、職員心理としては「自分たちが好きにやらせてもらえる」というのがありました。それから授業ではなく、あくまで家庭学習のサポート。授業というと先生方はものすごく緊張されます。でも、あくまでも家庭学習のサポートで、「できなくてもいいんです。ダメ元でもいいんです。失敗してもいいんです」としました。それから毎日、指示が変わるんです、朝はこう言っていましたが終礼ではこうですと、スピード感を持ってやってきました。振り返ってみると一番最初に市の教育委員会にデモンストレーションに行ったときにペーパーを1枚つくっただけで、あとは一切書類はなし。書類もない、ハンコもない、そういう状態でしたが職員は毎日毎日、自分たちで工夫をしていました。職員室ではあちこちからハウリングの音が聞こえてくるんですよ、ハウリングが起こるということはつまり職員が Zoom 研修をやっているということなんですよ。先生方にはこうしてどんどんと成長していく楽しさがあったと思います。

(スライド13)

(スライド 13)

ここがポイント 職員心理編

- ・職員にアイデアを求めた。
「好きにやらせてもらえる」
- ・授業じゃない。あくまで家庭学習サポート。
- ・できなくてもいい。ダメ元。失敗して普通
- ・毎日変わる、スピード感、書類決済無し
- ・職員の学び合い、自己成長の楽しさ

さて、コロナ禍が学校に一番関係があったと思うのは、GIGA 構想の前倒しだと思います。小・中学校には一人 1 台のタブレットが入ります。福岡市は市立高校の生徒にも一人 1 台のタブレットを配ります。早い所では 9 月から全員がタブレットを持ちます。それで、本校もいっぱい中学校へオンライン研修の出前をするわけですね。このタブレットの使い方は「第 2 波、第 3 波に備える」ということ、それから不登校対応。それから日常的にタブレットを使って学ぶ、タブレットという学用品が教室の風景にあるということなんです。生徒たちはもう中学校でオンラインで経験しています。西陵高校の先生だけから学ぶのではなくて、全国には優秀なわかりやすい授業をする先生方がいっぱいいる。それを自分で学んでいく。つまり、教室の先生から教えてもらうのではなくて、自分が学ぶんだという学習態度、これは AL の教えと一致するんですが、これからは教室の風景が変わっていきます。そういうときに私たちは幸か不幸か遭遇しています。このことを嫌だと思うか面白いと思うか。

新しいメディアに対し、「絶対使わない」という声は携帯電話、パソコンが登場した直後は聞こえましたが、もう今はそういう人はいません。実際にそう言っていた方は今、校長先生になられてバンバン使っているらしいです。こんなもんだと思います、最初はアレルギーを起こす。だけどだんだんと慣れていくのだと思います。ということですので 30 分も喋ってしまいました。

3 自己紹介

さて、ここから自己紹介がやっと始まります。(笑) 私は福岡県の国語の教員です。校務分掌は長年進路指導部をやってきました。城南高校で進路学習ドリカムプランを企画し、これが全国的な注目を浴びて、その後、文部科学省や国研のキャリア教育関係の専門委員をやり、キャリア教育関係の職員研修講師をやりました。でも、西陵高校の職員にとっては、うちの校長はキャリア教育の企画をやっていたとか AL の専門家だとかは思っていない。オンライン学習校長と思

っています。教諭をずっとやった後に、福岡県教育センターの教育指導部長として AL の普及・啓発の活動を平成 27 (2015) 年、28 (2016) 年とやりました。その後、県教委高校教育課主幹指導主事となり、次に城南高校の校長、そして今年 4 月に西陵高校の校長に転職したわけです。

福岡県教育センターで AL を推進していくときに、「授業の数だけ AL がある」、「自校の AL は自校で創る」、「AL 職員研修会は AL で=私たち自身が主体的・協働的・問題解決を」、「職場も AL 化」、「あくまで現場、自分の言葉で」、「一人の百歩より百人の一步」という方針でやっていました。

流行は「ドリカムプラン」、「キャリア教育」、「アクティブラーニング」と名称は変わりましたが、私の中ではずっと一貫して追求しているものは「主体性」、「内発性」、「自分を駆動する何か」です。

国語科の教師として私は変な授業をしていました。今日の午前中のセッションでは渡邊久暢先生が「教材研究が大切だ」という話をされましたが、私も教科書を素材にものすごくエネルギーをかけて試験問題をつくり、解答と解説をつくり、それを生徒に渡すとその段階で私の中では 95% ぐらい仕事が終わり、という感じでした。そうすると生徒は「なんで教えてくれないんですか？」と文句を言いますが、「試験会場で先生は横に立っとるわけやないとよ。社会人になったら親や先生がああしなさい、こうしなさいと言ってくれんとよ。自分でどげんかせないかん。自分で考えて自分でやらんといかん。その訓練をここでやっている」と言っていました。そして「わからんところがあったら質問しなさい」と言い、その質問の手が上がったらそこに私が走って行って、「どこがわからんと？」と聞き、そこで答えは私がいうのではなく、私は質問を次々出します。そうすると生徒はその質問に答えることによって自分で答えにたどり着くように誘導します。そういう授業をしていました。

そして生徒が「そうか分かった！」と言ったらそこで一丁上がりですね。別の生徒から同じ質問が出るとその生徒に「あそこで説明してあげて」と私の弟子が教室を渡り歩きます。よっぽど多くの生徒がわからない場合は一斉の説明をしていましたが、あとは生徒がワイワイガヤガヤ言いながらで、私はそれを「宴会授業」と言っておりました。私がめざすものは「先生がいなくても進む授業」、理由は「説明する人が一番分かる」を体感していたからです。でもそれは内心不安でもあったんです。ところが、『アクティブラーニング入門 小林昭文著』を平成 27 (2015) 年 5 月に読んで涙が出ました。「私の変な授業はアクティブラーニングというのだ」と初めて自分のこの変な授業を肯定できました。でも悪い授業だとは最初から思っていなかった。なぜかというといい成績として結果が出るからです。だからべつにどんな授業でもいいと思っていたんです。でも若い先生が「和田先生の授業見に行っていていいですか？」って言ってくれたとき他の先生からは「ああ、ダメダメ、和田先生のは全然参考にならん」って言われていました。(笑)

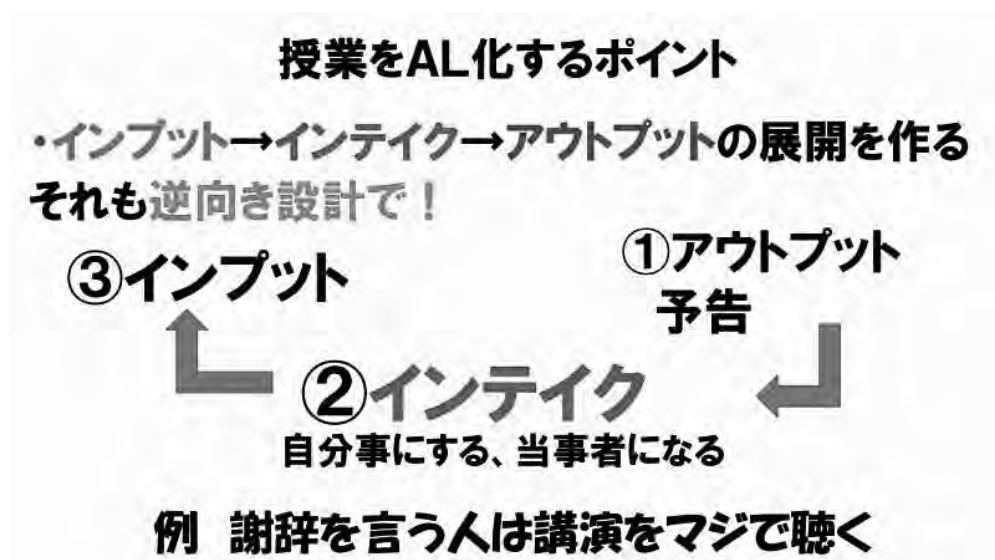
4 授業をAL化するコツ インテイクスイッチ

①当事者になると脳が活性化

私がそういう授業をやっていた理由は、「その生徒に説明させる」ということです。先生がいくら説明しても、いい説明をしても本人が説明できなければ意味がないんです。授業をAL化するポイントにインテイクスイッチがあります。授業をAL化するポイントは、インプット・インテイク・アウトプットの展開を授業の中でつくることで、それも順番は逆向き設計です。(スライド22)

まず①アウトプット予告をします。「今日はこれこれについて発表してもらいます」。そうすると、発表が後にあるので生徒はその問題を当事者として、情報を自分の中に入れようとします。例えば「講演の後で謝辞を言う人は講演をマジで聴く」ということですね。だから生徒をこの謝辞を言う人にするということですね。

(スライド22)

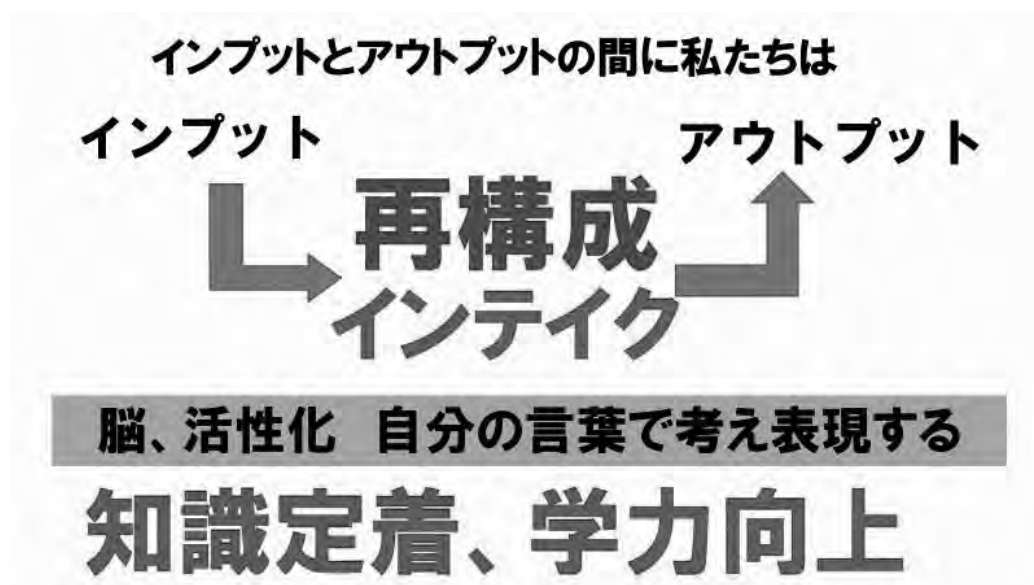


ドライバーズ効果をご存知ですか？ 運転手は助手席の人より道を覚えやすいですね。私は助手席に乗っていると全く道を覚えません。脳は自分が主体者だと判断すると活動しますが、自分が主体者ではないと判断すると、エコにできているので OFF やスリープモードに入るようになっています。そこで生徒をこの運転手にする、主体者にするという授業です。運転手は自ら動き、活動して考えて判断してやっています。授業でいうと、主役をやっているんです。そしてこの授業中の主役は誰か？ 主役を先生から生徒にするという考えが大事だと思います。つまり先生が教えるのではなく、生徒が学ぶということです。

インプットとアウトプットの間ですが、例えば私が今から 30 秒話すことを「どなたか耳コピーして繰り返してください」と言った場合、全く同じことを言うことはできません。それは一度自分の脳を通して、聞いたことを再構成するからです。この再構成をするときに「どんなふうに表現しようか」と考えて脳が活性化し、自分の言葉で考え表現します。このとき知識が定着し、学

力が向上します。(スライド 25)

(スライド 25)



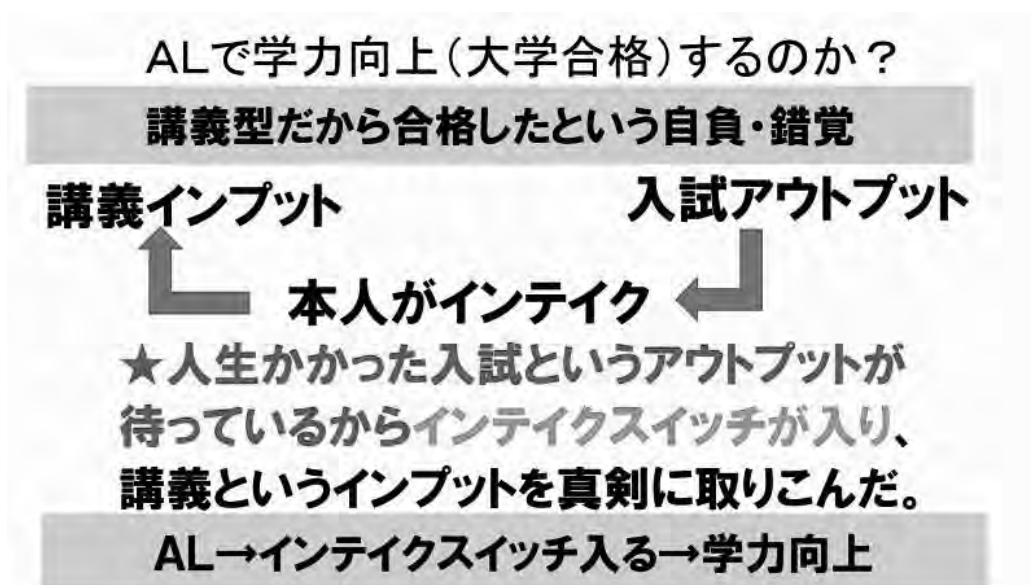
②人生をかけたアウトプットだから

AL の職員研修会で特に進学校と言われる学校に行くと、必ず教室の後ろに腕組みをして立っている一団がいました。「俺たちは絶対に AL しないぞ」といったオーラを出していました。その先生方は自分の授業が講義型だから生徒が合格したという自負があります。でもそれは錯覚です。

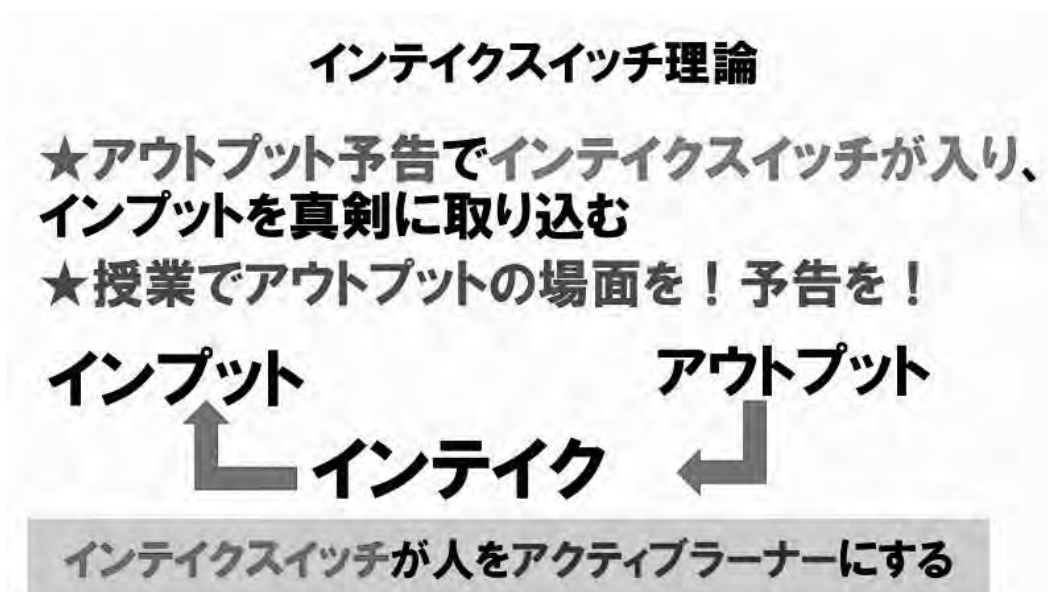
入試という人生がかかったアウトプットが待っているから、生徒はどんなにつまらない講義でもインテイクスイッチを入れるんです。そして一所懸命に取り込んだんです。もしその先生の講義のおかげで大学に合格するんだったら、その講義を聞いている人はみんな 40 人全員が例えばここだったら東北大学に合格しなければならない。でも合格する子、しない子がでこぼこしているのはなぜか。それはその子のインテイクスイッチがどれぐらい入っているかが違うからです。進路指導をされる先生は「本気になる」とも言いますね。「やる気スイッチ」、それを入れるということ。だから AL でインテイクスイッチが入ると学力が向上する、ということです。(スライド 26)

このことを私は「インテイクスイッチ理論」(スライド 27)と呼んでいます。アウトプットを予告して、スイッチが入って、インプットしていく。だから「授業では必ずアウトプットの場を予告してください」と言っていました。これは私が考えたことではありません。外国語習得の理論です。英語を長年、中・高・大と学んでも私は話せません。だけど外国に行って生活をした人は話せるようになります。それはアウトプットがあるからです。このアウトプットをするということがものすごく大事なことです。

(スライド 26)



(スライド 27)



5 AL 授業実践のポイント

AL 授業実践のポイントについてはお手元のレジュメで詳細を説明しているので割愛し、ここで第1部を終わります。引き続き第2部です。

第2部 城南・ドリカム・職員のインテイクスイッチ

1 ドリカムプランの背景

第2部ではドリカムプランの話をします。

平成6(1994)年当時の城南高校は全日制普通科、1学年10クラス、昭和39年創立なのでちょうど創立30周年が終わったところでした。福岡県の城南高校と言えば、草創期は「スパルタ、城南火山」と言われておりました。校訓は「新進、明朗、端正」です。創立30周年の記念式典が終わり、31期生が入学してきたところにドリカムプランがスタートしました。

当時私は、城南高校で実質7年目を迎え、校務分掌は進路指導部でした。それまではずっと3年生ばかりを担当していたんですが、久しぶりに1年生に降りることになりました。なぜかという、新教育課程が始まる年だったからです。つまり新入生は新教育課程の一期生なので、1年生、2年生、3年生と順に持ち上がっていかないと入試動向がわからないのではないか、という説得を受けて1年生の副学年主任となりました。学年目標は「新課程 城南元年」でした。(スライド2、3)

(スライド2)

H6当時の城南高校紹介

- ・全日制普通科 1学年10クラス
- ・昭和39年創立
- ・県内新設校のはしり
- ・草創期 スパルタ「城南火山」
- ・校訓「進取 明朗 端正」
- ・創立30周年が終わり31期生入学
- ・城南ドリカムプランスタート

(スライド3)

H6当時の和田

- ・城南高校実質7年目
- ・校務分掌は進路指導部
- ・3年生連続担当、久しぶりに1年に降りる
- ・副学年主任
- ・学年目標「新課程 城南元年」

2 ドリカムプランはなぜ生まれたか？

ドリカムプランがなぜ生まれたかと言うと、平成 6（1994）年 4 月の城南高校は大ピンチだったからです。ピンチは 2 つあってまずピンチ 1 は目の前の生徒たちです。「今年の新入生はヘンだ」という声が学年会議であがりました。知識量、ドリル、暗記、忍耐力、これらがちょっとどうかな？と。その分活発で行動的。一番おどろいたのは英検 3 級を持っているのが約半数、460 人のうち 220 人が持っていました。それからディベートの経験者がいたことです。そのころのディベートは職員にとって「何それ？」、賄賂のリベートと区別がつかない、そういう状況でした。それから新教育課程の教科書の配列がそれまでとは変わって、特に数学の先生からは「教え方がわからない」と。図表などの視覚的理解が先だという教科書配列になっていて、「新教育課程の教科書の教え方がわからない」ということがあり、また英語では単語数が減り、国語では暗唱や文学史という概念が無くなっていました。学年会ではいつも疑問・不満が噴出でした。

つぎにピンチ 2 は学校を取り巻く状況で、私学との競合が激化したことです。城南高校がある第 7 学区は公立 VS 私立で生徒獲得の激戦区でした。平成 6（1994）年は近くの私学が男女共学化してものすごく人気となりました。修猷館高校が近くにありましたので、その合格はちょっとどうかな？という生徒が城南高校に入ってくる層でしたが、それがその私学の特進クラスに合格したらイチかバチかで修猷館高校を受験する、ということになり城南高校に来ません。このことが外部模試の結果からわかりました。

例年は偏差値 70 以上の層が 20 人ぐらいいて、その中から九州大学現役合格者がでますが、その年は 70 以上は 1 人しかいませんでした。「これは 3 年後どうなるの！」という状況です。でも当時私は副学年主任と言う立場だったので、学年主任という上司がいます。「この人、貧乏くじだな」と思っていました（笑）

学年団としては「せめて例年並みの結果を出したい」ということで「だいたい、新課程って何ね？」、「何で今ごろ始まると？」と言っていました。実はこれが教師の課題発見でした。そこで 1 年生の学年団は情報戦をスタートさせます。課題解決の第一歩として情報収集に走ります。また原点に帰って新学習指導要領を熟読しました。皆さんは学習指導要領を読まれましたか？私はこのときに初めて熟読しました。その中で新学習指導要領には新しい学力観、現在の学力の 3 要素につながる、意欲・関心・態度にスポットが当たっていて、先の新入生の入学者で話したように「中学時の英検 3 級取得者は 5～6 名→220 名」、「ディベート経験者がいる」ということは中学校で何か変化が起きていることの結果でした。そこで中学校の授業見学に行きました。その日、一斉授業をしていたのは 1 クラスだけで、あとは全部ワイワイガヤガヤとグループ学習・調べ学習をしていました。そのようすを見て「あ、なるほどね！」と思いました。教育課程が変わって中学校が変わったのに、高校だけが従来のものでやろうとしているから、変わるべきは私たち高校だと思いました。でもどう変わればいいのかわかりません。

そこで 2 学期に学校訪問に行きました。訪問先は、鹿児島中央高校、甲南高校、宮崎大宮高校、宮崎西高校です。特に宮崎西高校はたった 20 年で東大を含む進学実績がありますので、「どんな秘策をとっているのか？」と思っていました。そしたら、その宇田津校長が言いました。「あん

私たち教師は目先の合格ばかり、だからあんた達の学校はつまらんとよ。先を見ろ！」、さらに「その生徒たちが社会に出て、どれくらい役立っているか、そこが問題やろ」と。で、「そうか！！つまりそれが新しい学力観なんだ」と。つまり大学卒業後の人生の本番で自分から意欲的に活動する人材。それは体験をして、意欲が高まり、それが内発的な動機となり、生徒が自分で走り出すということ。さらにそのときにこんなことも聞きました。「国公立大学は推薦入試の枠を3割にと文科省が言っている」、これは現在のアクションプランです。25年前に宇田津校長はもうこんな話をしていました。そのとき「この人、何でこんなこと知っているの？ 私たちは情報不足で勉強不足だな」と思いました。そして帰りの飛行機の中ではすでにドリカムプランの構想がありました。

ドリカムプランのネーミングについて説明します。名付けたのは私ですが、ドリカムプランの前に「国公立推薦入試対応 城南ドリカムプラン」と書いていました。これは推薦入試で何とか合格者を狙おうという下心ありありでした。

そしてさまざまな取り組み、ドリカムグループをつくり、ドリカム顧問を設け、ドリカム活動などをし、またいろんな企画（スライド47）もしましたがそれは超自転車操業でした。

（スライド47）

次の企画は超自転車操業

- ・大学シラバス研究
- ・校外の講座受講→ドリカム活動
- ・2年生オープンキャンパス
- ・職業人ガイダンス
- ・大学教官の学問入門講座
- ・ドリカム企業研修

これらは「生徒がこんなのを欲しがっている」という現場で感じたニーズを形にしていきました。

3 どうやって組織化したか？

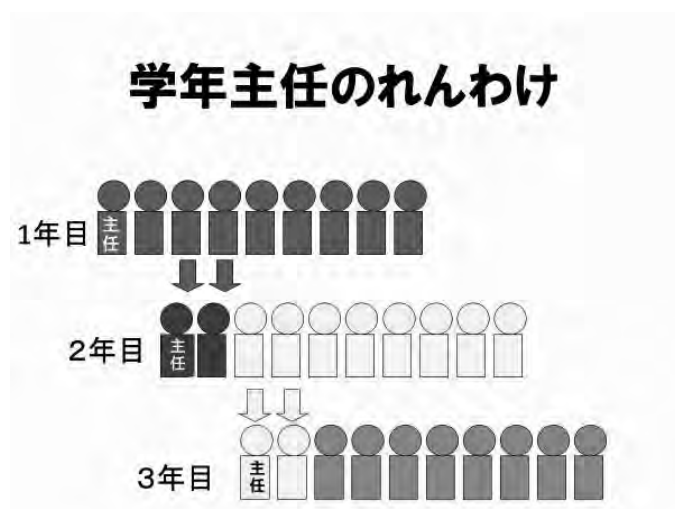
1年目の正副主任主事研修会の場で次の内容を報告しました。参加者は13分掌26人+校長、教頭です。第1学年からの報告として、「今年の1年生はこういう状況です」と話したところ、2年の学年主任の世界史の先生が「それは城南高校にとって黒船の来航だ」と言われました。私が西陵高校で黒船と言われるスタートはここですね。

「黒船の来航」ということですが、今の1年生に起きていることは次の1年生にもまたその次の1年生にも起こりますね、それぞれの学年の主任主事にとっては「明日は我が身」なんです。危機感の共有が起きました。これで1年生を応援しようという雰囲気が出てきました。

また、校長先生が年度末の校長宣言で、「国公立大学に合格する県立高校として地域の信頼を得て生き残る。ついてはドリカムでいく」と言われました。これは管理職のリーダーシップと職員のボトムアップが握手した瞬間ですが、私は「いいのかな、結果もでていないのに。知らんぞ～」と思いながらも「校長先生、1年生の動きを見てくれたんだ」と、学校経営に参画している嬉しさもありました。またその校長先生の方針が見える人事配置がありました。第1学年主任は進路指導主事に、副学年主任（私です）は学年主任になりました。春に「あの人貧乏くじだ」と思った立場に今度は私になったんです。でもこういった若手、女性の登用が皆に勢いを付けたんですね、「自分たちも」という意欲の向上につながりました。

また、「学年主任のれんわけ」という仕組みをつくりました。1年めの10人の中から2人が翌年の新1年生の学年主任ともう1人となります。そこに新たに8人を加えて計10人で構成します。またさらに翌年はその中から2人が、とのれんわけしていきます。（スライド57）このように3年かけて形ができあがっていきました。

（スライド57）



いよいよ合格発表ですが、驚きの結果が出たんです。現役国公立大合格209名、前年は154名、前々年は103、さらに前は131、だいたい100人台だったんですが、この合格発表の年から6年間は200名を越え倍増です。何が起こったのか3年担任団は6月くらいまで分析できませんでした。

4 ドリカムとは何だったのか？

一言でいいますと、「志は千里を走る」です。生徒に3年間ずっと次のことを問い続けました。「将来どうしたいか？」「何がやりたいのか？」。そうすると生徒は「自分の人生を、自分で何とかせんといかん」という覚悟をして、つまり自分のキャリアを展望したら、これは自分で何とかしないとイケないとなって、自分たちで勉強を始めたんです。(スライド71、72)

(スライド71)

**自分の人生、
自分で何とか
せんといかん
覚悟**

(スライド72)

**キャリアを展望
↓
自分で勉強
しだした**

進路学習によって「自分の進路は自分でどげんかせんといかん!」、インテイクスイッチの話はここにつながります。受験こそ本当に自分ごとです。これで生徒の主体性に火がついたんです。インテイクスイッチが入ったことになります。

ふりかえって、ドリカムは教師主導の進学指導から生徒主体の進路学習へと変わるモデルチェンジだったんです。

そして教師にとってのドリカムは、ドリカムをつくるのが楽しくて、面白くて、寝食忘れてやりました。「教師の私たちのインテイクスイッチはいつ入ったのか」というのは新入学生の学力低下でした。これは大ピンチでした。本当にこのときピンチだと思い、「自分たちで何とかしな

いといかん」、と思って動き出したんですが、今から思うと「ピンチはチャンスだった」んですね。

ドリカムをつくるのが何で面白かったのかと言うと、それは自分たちの WILL の実現だったからです。「生徒の未来のために、今これが必要という教師の想いを形にする」、それが大事だと思います。

学級をつくることは学年をつくること。それは学校をつくることで、それは日本の教育をつくることだと思っています。それをやらせてくれた校長先生に大感謝です。

私はそういう城南高校に 17 年間勤務し、その後、出ましたが、城南高校はその後どうなったかと言うと、スライド 82 ですが、平成 30（2018）年 4 月城南高校に校長として着任したとき、ドリカム開始からちょうど 24 年めでした。

（スライド 82）

さて、校長として着任した城南は？

- ・ H30. 4 月着任 ドリカム開始から 24 年目
- ・ SSH が 2 期 4 年目、通算 9 年目
- ・ 2 年 ESD 課題研究が 2 巡目、全学年経験
- ・ 各学年の若手が総学の仕切り
- ・ 即興型ディベート、英語イマージョン教育
- ・ 総学ドリカムプラン
- ・ 金曜特別講座、城南 EPS、ジョイントセミナー

私は総学のプログラムを見て（スライド 83）、1 年生、2 年生は分かるけれど、どうして 3 年生は進路と結びつかないのか、と思いましたが、これは年度末まで様子をみて判断しようと思いました。九州大学の教育学部の AO を受けるという生徒が課題研究では「ブーメランがどうやって飛ぶか」に取り組んでいて受験と全然つながっていないんですね。

（スライド 83）

総学のプログラムを見て

- ・ 1 年 クリシソ、輪読 ESD 課題研究のプレ
- ・ 2 年 ESD 課題研究 SSH の一環で教科
- ・ 3 年 推薦 AO 時期 どうして進路と結びつかないの？（年度末まで見て、判断しよう）

2月26日に課題研究発表会がありました。80班が参加し、各班すべてがポスター発表をしました。それを見て「なかなかやるな」と思い「あの頃の自分たちと一緒に」とも思いました。例えばドリカムプランに熱心な生徒とそうでもない生徒がいて、その成績は正規分布なんです。また課題発表に熱心な生徒とそうでもない生徒も同じようにいます。他校の発表や報道を見るたびに素晴らしいと思うんですが、いやうちのもいい。うちがうちで独自に発達していけばいいんだ、と思いました。それでも昔の総学の担当者としては「ここをこう変えたらいいんじゃない？」と、担当者に提案をしました。そうしたら、担当者が「校長先生、お言葉を返すようですがそれを変えたら目標が変わってしまいます。自分たちはこんな力を育てたいと思って、このプログラムをやっているんです」と言いました。それも、このドリカムを企画した校長の私に向かって（笑）。私はこのセリフを聞いたときに、震えるような嬉しさを感じました。そして「老兵は消え去るのみ。消え去れるのは幸せなことだ。」と思いました。

歴史は繰り返しているんです。自分たちで一所懸命考えつくっているんです。30代の職員たちを見ていると、あの頃の自分たちを見ているようでした。あの頃の自分たちは30代で校長先生は退職前の60歳でした。「当時校長先生から見たら、私たちもこんな風に見えていたんだな」と思い、目の前の若手の先生たちがものすごく頼もしく、まぶしいと思いました。

そしていつも時代は若手がつくると思います。つくる30代、支持する管理職だと思います。私も長年ずっと総学をつくってきた人間として、いろいろなアイデアがありますが、若手の先生のアイデアとどっちがより未来に近いのか、と比べるとそれは若手の先生のアイデアなんです。若手には体力も勢いもあります。直接、生徒と接しています。このときになってわかったことがあります。当時、校長先生が「ドリカムを全校でやると」言われましたが、あれは「若手の言うことに乗ろう」という管理職の決断でもあったんだと思いました。

いろんなことを若手が一所懸命に考えてつくるものを、自分の学校で育てていけばいいんだと思います。（スライド88）

（スライド88）

本校独自の発達

- ・ 他校の発表を聞くと、良さそうに見える。
- ・ でも、自校は自校なりの発達をして今日がある。
- ・ それを肯定し、育てていけばいい。
- ・ 他所を羨むより、自分の学校の実態に合わせて手づくり
- ・ 本校独自の発達
- ・ 自校の教育は自校でしか創れない

私が城南高校の職員をみて、これに乗ろうと思ったのは、彼らが「自分事化して、当事者として、責任を持ってクリエイティブしていた」からです。そして「生徒につけたい力を明確にして、自分たちのアイディアで具現化」していたからです。こんな風に頼もしい城南高校の職員たちを見て私は本当にいつ消えてもいい、と思っていました。

今朝フェイスブックを見ていたら、城南高校の職員がこんなニュースをあげていました。城南高校でもオリジナルのオンライン学習をスタートさせていて、授業配信動画を 800 本つくったという報告を聞いていました。その城南高校の取組が文科省のオンライン学習のページに紹介されているというニュースでした。城南高校も頑張っている事、嬉しいと思っています。

私は西陵高校の先生と一緒にオンライン学習をつくりました。城南高校はそうやって自分たちでやっています。どこが何をどうするか、というのはいろいろありますが、ただ自分の学校をどうするかというのは、その職員が考えることだと思います。

会場の先生方、それぞれの学校で総合的な探究の時間をどうするか、主体的・対話的で深い学びをどうするか、オンライン学習をどうするか、などいろいろと考えられると思いますが、一番の原則はその学校の先生にしかできません。ここにいらっしゃる皆さんそれぞれが「自分の学校ではどうするか」ということを考えていただきたいと思います。

私が城南高校を去って、今の職員はオンライン学習が紹介されるほどがんばっています。どうやったかではなくて、スピリットというか魂というか、それが伝わっていくことが大事なんだと思います。私はそれがしっかりと受け継がれていくと思っています。

おまけとしてこんな話があります。

城南高校では即興型英語ディベートというものを始めて 7~8 年目ぐらいになりますが、中心には I 先生がいらっしゃいます。その先生が即興型英語ディベートを始めた 1 年目に教頭先生から怒られたそうです。当時、土曜に保護者からお金を頂いて補習をしていたそうですが、「保護者からお金を頂いて受験に関係ないことをして！」と。それで I 先生はそのときどうしたのでしょうか？ 私は聞いたんですよ、そしたらひとこと、「無視しました」(笑)。I 先生は言いました。「私はこれで絶対に力がつくと思っていました。スピーキングの力が大事なことはわかっていました。いずれスピーキングの試験が導入されると思っていました。だから教頭先生の言うことは無視していましたが、2 学期になったら教頭の態度が変わりました。他校からの問い合わせの電話があって『即興型ディベートってアクティブラーニングなんでしょ？』とくると、教頭が『そうなんですよ！』って自慢していました」(笑)。この話の中の「無視していました」というところ、ここです。つまり本物とコピーの違いです。その人の中に信念や理念があると、その人の中からあふれ出てくる思いでそれを実現していくわけですね。コピーでやると、誰かが横やりを入れるとひるんでしまいます。

もう一つです。この 3 月にたくさんの相談を受けました。「管理職が Zoom をやらせてくれないんです」と。私はこう答えました。「それは管理職に相談するあんたが悪い」と。「管理職は Zoom とかわからん、やったことがない。そういう人に『Zoom をやりましょう』と言ったって自分が知らないことに対してはだめって言うさ」。で、どうするか。「しばらくゲリラでやりまし

よう。いきなり学校や学年で一斉にやろうとするからできん。まずは自分の周り、自分のクラス、自分のエリアでやっておく。いいものやったら絶対誰かが気がついて、その結果、広がる」、こういった話をしていました。3月はこんなでしたが、4月になると一気に Zoom は花盛りになりました。

最後です。城南高校 34 期の竹上君が卒業生として後輩たちに話をしました。「先生も上司も『あれやれ、これやれ』と言う。でもそれはやらされるんじゃなくて、任されているんだ」と言いました。それを聞いて「ほう、偉いな」と思いました。さらに続けました。「任された以上のことをやってやるんだ」と。これを聞いたときには本当にゾクゾクしました。「やらされるのではなく、こういう自分でやる人」というのがこれから求められる人材だと思います。

ちょうど時間となりました。今日はこういう中で一所懸命に聴いていただきありがとうございました。

(終わり)

授業力向上フォーラム 報告書

「自律型学習者を育てるカリキュラム構築 ～読解力向上を目指して～」

青森開催

発行日 2020 年 11 月

発 行 産業能率大学 入試企画部 企画課

〒158-8630 東京都世田谷区等々力 6-39-15

TEL03-3704-0731 FAX03-3704-9766

<https://www.sanno.ac.jp>

(禁無断転載・転用・複写)
